

平成 2 1 年

岐阜県観光レクリエーション動態調査結果

平成 2 2 年 7 月

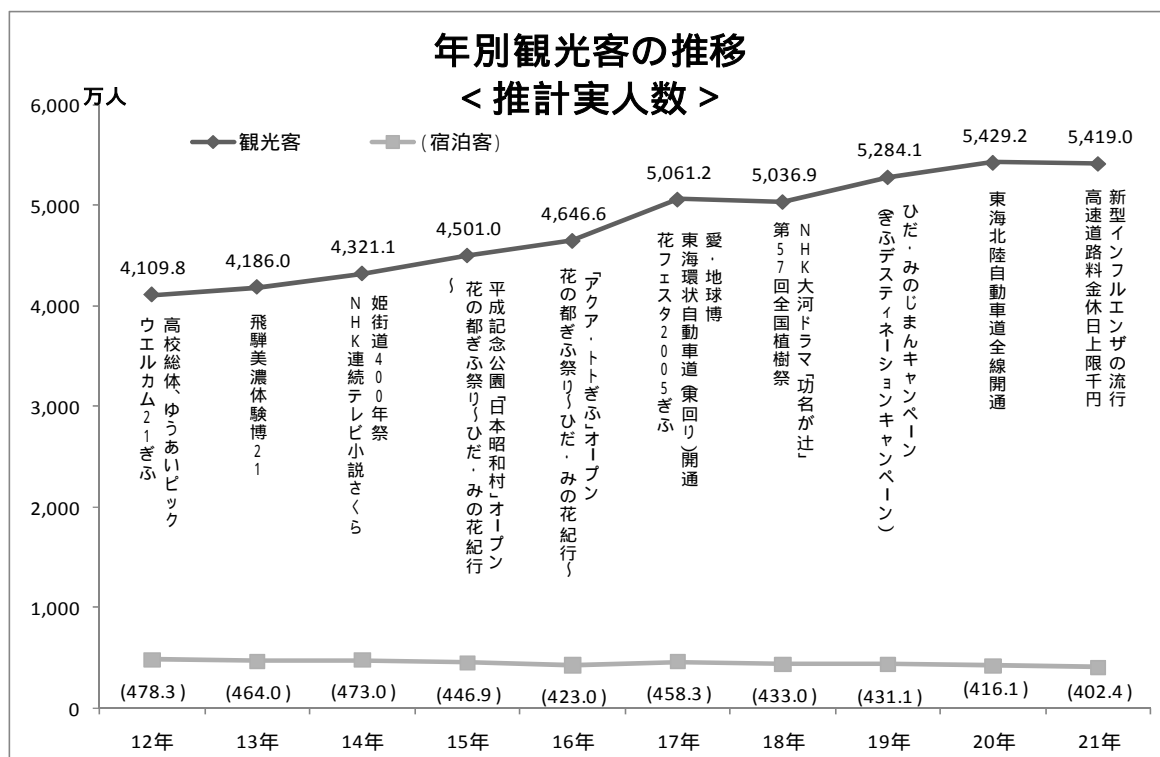
観光・ブランド振興課

1 観光客数

(1) 県全体の動向

平成21年の観光入り込み客数は、前年と比較して、宿泊客数が減少(前年比 3.3%)、日帰り客数は増加(前年比+0.1%)となり、全体では前年比 0.2%の5,419万人と、ほぼ横ばいとなった。

折からの世界的金融危機に端を発した景気の低迷に加え、平成21年4月24日にメキシコで発生し世界中に感染拡大した「新型インフルエンザの流行」により宿泊客が減少した一方で、こうした影響がある中、飛騨・美濃じまん観光キャンペーンなど各種誘客事業の実施や、東海北陸自動車道の全通、高速道路料金の休日上限千円などにより日帰り客が増加したが、宿泊客の減少をカバーすることはできず、全体として前年からほぼ横ばいとなった。

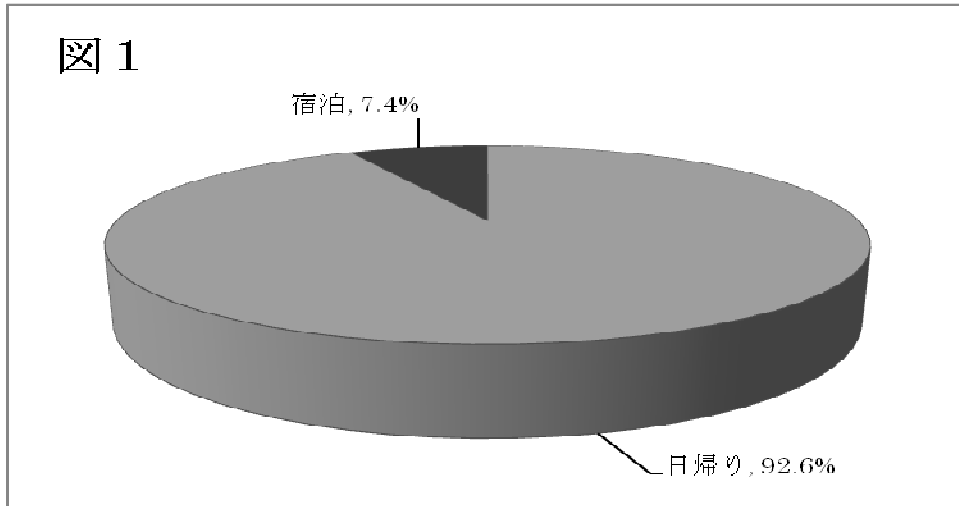


区 分		平成21年確定値(対前年比)	参考:平成20年確定値
観光客数	全 体	5,419万人 (0.2%)	5,429万2千人
	日帰り	5,016万6千人(+0.1%)	5,013万1千人
	宿 泊	402万4千人(3.3%)	416万1千人

観光客数は、推計実人数。

日帰り・宿泊別観光客数

平成21年の観光客数は5,419万人であったが、これを日帰り・宿泊別にみると、日帰り客は5,016万6千人、宿泊客は402万4千人と、日帰り客が全体の92.6%を占め、昨年よりも日帰り客の割合が0.3ポイント増加した。(図1)

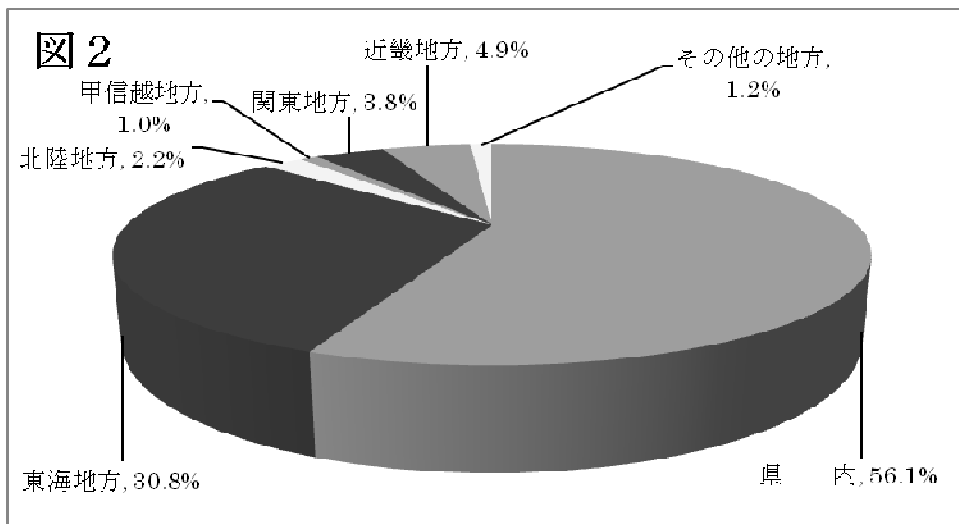


圏域別に見ると、西濃圏域が日帰り客の割合が最も多く(構成比98.4%)、岐阜・中濃・東濃についても日帰り客が9割以上を占める。

一方で飛騨圏域は、日帰り客70.8%、宿泊客29.2%と他圏域に比べ宿泊客の割合が高く、県全体の宿泊客402万4千人のうち210万2千人と全体の52.2%を占めた。

居住地別観光客数

居住地別に見ると、県全体では県内客は3,042万6千人(構成比56.1%)、県外客は2,376万4千人(構成比43.9%)と、県内客が多くを占めたが、飛騨圏域では県外客の割合が67.5%と高い。(図2)



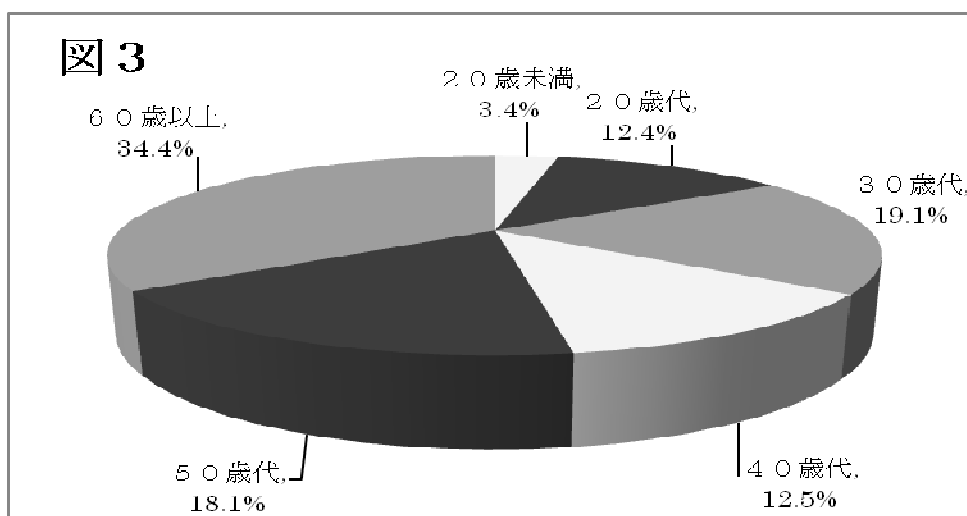
県全体では、県外客のうち 70.3%が東海地方からの観光客であり、以下近畿地方、関東地方と続いている。

また、東海地方からの観光客の割合が特に高いのは、西濃圏域及び東濃圏域である。

男女別・年齢別観光客数

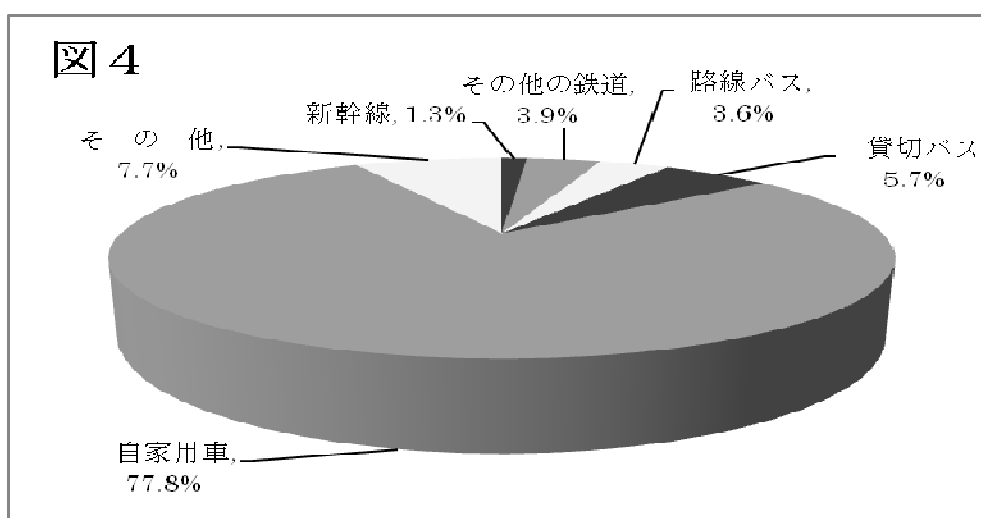
男女別で見ると、男性が2,519万1千人(構成比46.5%)、女性は2,899万9千人(構成比53.5%)と女性が上回り、前年と構成比は変わらなかった。

年齢別では、60歳以上が34.4%と最も多く、以下30歳代、50歳代と続いている。(図3)



利用交通機関別観光客数

利用交通機関別に見ると、前年に引き続き自家用車が最も多く全体の77.8%を占め前年より増加する一方、鉄道などの公共交通機関は軒並み減少した。これは高速道路料金の休日上限千円効果と考えられる。(図4)



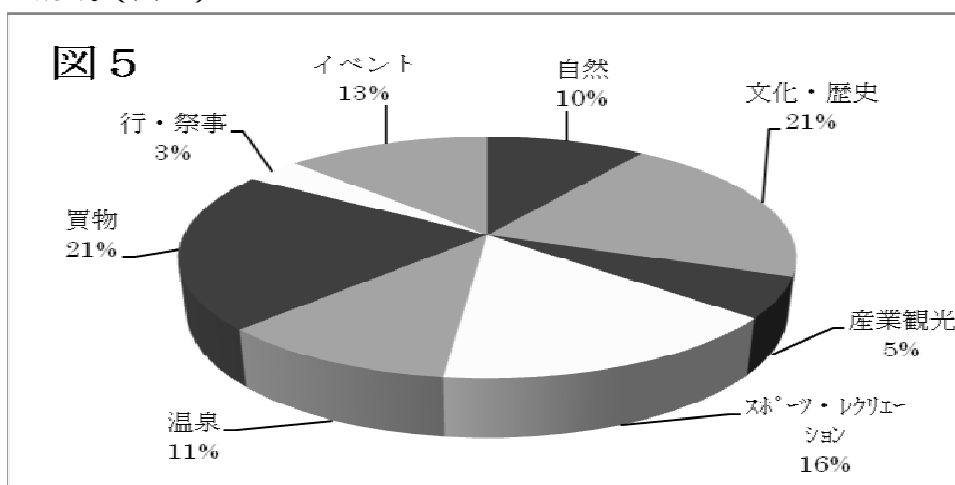
同行者別観光客数

同行者人数別に見ると、「2～3人」と「4～5人」で全体の80.2%を占める一方で、「団体旅行」(1人以上)の割合は全体の4.5%に留まり、少人数による観光形態が主流となっている。

同行者別に見ると、「家族」が49.0%と最も多く、次いで「友人・知人」と続く。

観光地分類別観光客数

観光地分類別に見ると、「買物」と「文化・歴史」で全体の41.8%を占め、以下「スポーツ・レクリエーション」、「イベント」、「温泉」、「自然」、「産業観光」、「行・祭事」と続く。(図5)



圏域別で見ると、岐阜圏域は「スポーツ・レクリエーション」や「イベント」、西濃圏域は「文化・歴史」や「自然」、中濃圏域は「買物」や「スポーツ・レクリエーション」、東濃圏域は「買物」、飛騨圏域は「文化・歴史」や「温泉」が多い。

なお、観光地点毎の集客数の県内トップは、前年に引き続き土岐プレミアム・アウトレットの439万人となった。

(単位: 万人、%)

順位	観光地点名	観光客数	増減	前年	
				順位	観光客数
1	土岐プレミアム・アウトレット	439.0	+ 1.9	1	431.0
2	河川環境楽園(アクアト含む)	414.2	0.9	2	417.9
3	高山地域	263.3	3.3	3	272.3
4	千代保稲荷神社	208.6	+ 0.3	4	208.0
5	千本松原・国営木曽三川公園	194.1	+ 13.3	6	171.3
6	世界イベント村ぎふ	167.4	5.1	5	176.4
7	白川郷合掌造り集落	158.6	3.8	7	164.8
8	伊奈波神社	131.3	14.2	8	153.1
9	下呂温泉	124.4	3.9	9	129.5
10	谷汲山華厳寺	103.7	+ 23.5	10	84.0

(2) 各圏域の動向

圏域別に観光客数を見ると、西濃圏域、中濃圏域、東濃圏域で増加した一方、岐阜圏域、飛騨圏域では減少となった。

岐阜圏域では、宿泊客は増加したものの日帰り客の減少をカバーできず、全体として対前年比2.5%減少となった。

また、飛騨圏域では日帰り客、宿泊客ともに減少したが、新型インフルエンザの流行による宿泊予約のキャンセルが大きく影響したにもかかわらず、全体として対前年比6.7%の減少に止まった。

<観光客実人数(推計)>

(単位:万人、%)

	日帰り客数	宿泊客数	観光客数(合計)	対前年比
岐阜圏域	1,170.6	73.6	1,244.2	2.5
西濃圏域	1,187.7	19.9	1,207.7	+3.7
中濃圏域	985.8	49.6	1,035.4	+1.5
東濃圏域	1,162.9	49.1	1,212.0	+1.3
飛騨圏域	509.6	210.2	719.7	6.7
合計	5,016.6	402.4	5,419.0	0.2

千人未満を四捨五入しているため、内訳の計は合計と一致しないことがある。

岐阜圏域

- ・観光客数は1,244万2千人で、前年と比べて32万3千人の減少(対前年比2.5%)となった。このうち、日帰り客数は1,170万6千人となり、前年に比べ34万5千人減少(対前年比2.9%)する一方、宿泊客数は73万6千人と2万2千人増加(対前年比+3.0%)した。
- ・観光地点別の入込客数(延べ人数)についてみると、岐阜県世界淡水魚園水族館(アクア・トトぎふ)が開館5周年を契機に各種イベントを開催したことにより増加したほか、見頃の時期に天候に恵まれた淡墨桜や、岐阜公園、ファミリーパーク等でも増加した一方、夏場の天候不順、不況等の影響で長良川花火大会等の主要観光地点において減少した結果、圏域全体としても減少したものと考えられる。

西濃圏域

- ・観光客数は1,207万7千人で、前年と比べて42万8千人の増加(対前年比+3.7%)となった。このうち、日帰り客数は1,187万7千人となり、前年に比べ46万4千人増加(対前年比+4.1%)する一方、宿泊客数は19万9千人と3万6千人減少(対前年比15.4%)した。
- ・観光地点別の入込客数(延べ人数)についてみると、50年ぶりに御開帳が開催された谷汲山華嚴寺や、好天に恵まれた海津市のチューリップ祭等で増加したうえ、

周遊日帰りツアーが好評な徳山ダムが新たに観光地点に加わったことで、圏域全体では増加したものと考えられる。

中濃圏域

- ・観光客数は1,035万4千人で、前年と比べて15万4千人の増加(対前年比+1.5%)となった。このうち、日帰り客数は985万8千人となり、前年に比べ20万7千人増加(対前年比+2.1%)する一方、宿泊客数は49万6千人と5万2千人減少(対前年比-9.6%)した。
- ・観光地点別の入込客数(延べ人数)についてみると、7年に1度の御開帳が開催された関善光寺、平成20年にオープンして以来好調である湯の華アイランド、道の駅「美濃にわか茶屋」、中山道太田宿等で増加し、圏域全体では増加したものと考えられる。

東濃圏域

- ・観光客数は1,212万人で、前年と比べて15万5千人の増加(対前年比+1.3%)となった。このうち、日帰り客数は1,162万9千人と、前年に比べ9万6千人増加(対前年比+0.8%)し、宿泊客数も49万1千人と5万9千人増加(対前年比+13.6%)した。
- ・観光地点別の入込客数(延べ人数)についてみると、前年に引き続き集客数県内トップとなった土岐プレミアム・アウトレットが増加したほか、50周年記念として盛大に開催された美濃源氏七夕まつり、道の駅「おばあちゃん市・山岡」等で増加し、圏域全体で増加したものと考えられる。

飛騨圏域

- ・観光客数は719万7千人で、前年と比べて51万6千人の減少(対前年比-6.7%)となった。このうち、日帰り客数は509万6千人と、前年に比べ38万7千人減少(対前年比-7.1%)し、宿泊客数も210万2千人と12万9千人減少(対前年比-5.8%)となった。
- ・観光地点別の入込客数(延べ人数)についてみると、道の駅「南飛騨小坂はなもも」等で増加したものの、天気に恵まれなかった高山祭や、前年から続く世界的不況や円高、新型インフルエンザの流行や夏場の長雨等の影響により、主要な観光地点で軒並み減少した結果、圏域全体で減少したものと考えられる。

(3) 外国人延べ宿泊客数の動向

外国人の延べ宿泊客数は22万8千人で、前年と比べて4万人の減少(対前年比14.9%)となり、過去最高を記録した前年には及ばなかったが、過去2番目の高水準となった。前年より減少した原因としては、新型インフルエンザの流行により、日本を含むアジア地域への渡航を敬遠する動きがあったことが考えられる。

最も減少が大きい圏域は、飛騨圏域で2万3千人減少(前年比12.0%)したほか、他の圏域も軒並み減少した。

<外国人延べ宿泊客数の年別推移>

(単位：人)

	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年
岐阜圏域	48,419	35,340	40,047	41,444	34,615
西濃圏域	28,575	23,194	22,177	23,469	17,685
中濃圏域	8,750	4,974	5,309	9,775	6,123
東濃圏域	5,697	1,736	2,183	4,599	3,544
飛騨圏域	103,646	122,453	151,257	188,647	165,969
県計	195,087	187,697	220,973	267,934	227,936

1人の宿泊客が圏域内または県内の2箇所で宿泊する場合、圏域内または県内で2連泊する場合、宿泊客はそれぞれ2人と数える

2 観光消費額

平成21年の観光消費額の総額は2,822億99百万円(対前年比 1.4%)で、うち日帰り客分は1,895億56百万円(対前年比 0.3%)、宿泊客分は927億43百万円(対前年比 3.5%)であった。

また、1人当たりの平均消費額は、日帰り客は3,779円(対前年比 0.4%)、宿泊客は23,050円(対前年比 0.2%)であった。

宿泊客数が減少し、さらに宿泊客一人当たりの平均消費額も減少したことが、全体の観光消費額の減少につながったと考えられる。

区 分		平成21年確定値(対前年比)	参考:平成20年確定値
観 光 消 費 額	全 体	2,822億99百万円(1.4%)	2,862億90百万円
	日帰り	1,895億56百万円(0.3%)	1,901億92百万円
	宿 泊	927億43百万円(3.5%)	960億98百万円

観光消費額は推計額。

3 経済波及効果(試算)

平成21年の生産誘発額は4,040億8百万円、就業誘発効果は42,276人となった。

<参考>

中津川市の製造品出荷額等 3,819億46百万円(H20 県工業統計調査)

県全体(5兆9,590億20百万円)の6.4%

瑞浪市の人口 40,943人(H22.5.1 推計人口)

県人口(2,079,831人)の2.0%

< 参考データ > 年別観光客数・観光消費額の推移

区分		H 1 7	H 1 8	H 1 9	H 2 0	H 2 1
観光客数（推計実人数）<万人>		5,061.2	5,036.9	5,284.1	5,429.2	5,419.0
	日帰り	4,602.9	4,603.9	4,853.0	5,013.1	5,016.6
	宿 泊	458.3	433.0	431.1	416.1	402.4
観光客分類別構成比率						
居住地別	県内	47.1%	47.0%	47.2%	56.0%	56.1%
	県外	52.9%	53.0%	52.8%	44.0%	43.9%
	東海地方	39.0%	39.1%	39.0%	30.7%	30.8%
	北陸地方	2.1%	2.1%	2.1%	2.2%	2.2%
	甲信越地方	1.0%	1.0%	1.0%	1.0%	1.0%
	関東地方	4.0%	4.0%	3.9%	3.9%	3.8%
	近畿地方	5.7%	5.7%	5.6%	5.0%	4.9%
	その他の地方	1.2%	1.2%	1.2%	1.2%	1.2%
男女	男性	51.7%	51.7%	51.6%	46.5%	46.5%
	女性	48.3%	48.3%	48.4%	53.5%	53.5%
年齢別	20歳未満	1.7%	1.8%	1.8%	3.4%	3.4%
	20歳代	12.0%	11.9%	11.9%	12.4%	12.4%
	30歳代	23.4%	23.4%	23.4%	19.1%	19.1%
	40歳代	14.8%	14.8%	14.8%	12.5%	12.5%
	50歳代	20.6%	20.5%	20.5%	18.2%	18.1%
	60歳以上	27.5%	27.6%	27.5%	34.4%	34.4%
利用交通機関別	新幹線	1.5%	1.5%	1.5%	1.4%	1.3%
	その他の鉄道	3.8%	3.8%	3.8%	3.9%	3.9%
	路線バス	2.4%	2.4%	2.4%	3.7%	3.6%
	貸切バス	4.6%	4.6%	4.6%	5.8%	5.7%
	自家用車	83.1%	83.1%	83.0%	77.5%	77.8%
	そ の 他	4.6%	4.6%	4.7%	7.7%	7.7%
同行者数別	1 人	9.9%	10.0%	10.0%	11.1%	11.1%
	2～3人	54.5%	54.4%	54.4%	53.7%	53.8%
	4～5人	23.9%	23.9%	23.9%	26.4%	26.4%
	6～10人	7.6%	7.6%	7.6%	4.2%	4.2%
	11人以上	4.1%	4.1%	4.1%	4.6%	4.5%

区分		H 1 7	H 1 8	H 1 9	H 2 0	H 2 1
同行者	家族、友人、一人など	94.1%	94.2%	94.2%	95.3%	95.4%
	職場、地域等の団体旅行	5.9%	5.8%	5.8%	4.7%	4.6%
観光地点分類別	自然	17.3%	16.4%	15.8%	10.3%	10.0%
	文化・歴史	18.9%	19.8%	19.8%	19.9%	20.5%
	産業観光	6.5%	5.1%	5.3%	5.3%	5.4%
	スポーツ・レクリエーション	10.5%	11.3%	10.5%	16.5%	16.0%
	温泉	11.3%	11.5%	11.2%	10.2%	10.6%
	買物	17.7%	19.7%	20.4%	21.2%	21.3%
	行・祭事	3.6%	3.6%	3.6%	3.4%	3.4%
イベント	12.3%	12.5%	13.4%	13.2%	12.7%	

区分		H 1 7	H 1 8	H 1 9	H 2 0	H 2 1
観光消費額(県計) < 億円 >		2,862.44	2,810.03	2,903.98	2,862.90	2,822.99
	日 帰 り	1,698.05	1,699.68	1,795.39	1,901.92	1,895.56
	宿 泊	1,164.38	1,110.35	1,108.59	960.98	927.43

(注) 実人数、観光消費額等を算出する際に使用する係数(パラメータ)は、5年に1回実施する観光客・宿泊客アンケートに基づき設定し、5年間同じものを使用する。

- ・平成15～19年調査 : 平成15年度設定の係数を使用
- ・平成20～21年調査 : 平成20年度設定の係数を使用

【参考】

調査の概要

本調査は、社団法人日本観光協会の「全国観光統計基準」に基づく。

1. 調査期間

平成21年1月1日から平成21年12月31日まで

2. 調査対象

(1) 観光地点

観光地点の定義

年間観光客が50,000人以上、または季節的観光客が月間5,000人以上

観光地点の分類

観光地点の分類は以下の区分による。

- ・「自然」・・・優れた自然環境であり、管理者が常駐している景勝地（山岳、高原、湖沼、河川景観、その他鍾乳洞など特殊地形）。
- ・「文化・歴史」・・・文化財や歴史的建造物を有し、管理者が常駐している施設（城郭、神社・仏閣、庭園、町並み、旧街道、史跡、博物館、資料館、美術館、動植物園、水族館、その他橋、駅、ビル、ダムなど建造物）。
- ・「産業観光」・・・広範囲な敷地を有し、管理者が常駐している工場、農園、市場、牧場、伝統工芸等の産業拠点（観光農林業、観光牧場、観光漁業、伝統工芸、その他の産業観光施設）。
- ・「スポーツ・レクリエーション」・・・管理者が常駐している施設。
ただし、収容人数99人以下の施設、合併前市町村区域の利用者が8割以上を占める施設は除外し、観光利用の対象として取り扱っているものに限定（ゴルフ場、スキー場、テニスコート、アイススケート場、サイクリング場、ハイキングコース、キャンプ場、大規模公園、レジャーランド・テーマパーク、複合的スポーツリゾート施設、その他スポーツレクリエーション施設）。
- ・「温泉」・・・温泉あるいは鉱泉の湧出する地域であり、管理者が常駐している施設、地域（温泉、その他入浴施設）。
- ・「買物」・・・管理者が常駐している施設。
管理者が常駐している施設。ただし、収容人数99人以下の施設、合併前市町村区域の利用者が8割以上を占める施設は除外し、観光利用の対象として取り扱っているものに限定（道の駅等、複合的ショッピング施設・街、朝市・市場、郷土料理店・レストラン）。
- ・「行祭事」・・・合併前市町村区域住民の生活において伝統と慣行により継承されてきた、定期的に行われる集客5,000人以上の行祭事（行祭事、郷土芸

能、地域風俗)

- ・「イベント」…常設もしくは特設の会場において、一定の成果を期待して人や金を集めることを目的として行われる集客5,000人以上のイベント(博覧会、展示会、見本市、コンベンション、国体、花火大会)。

(2) 宿泊施設

・宿泊施設の定義

管理者が明確で常駐しており、毎日の利用者数を確実に把握することができ、宿泊に必要なサービスを営利目的で提供する、観光客を宿泊させるための施設。ただし、個人所有の別荘、リゾートマンション、ホームステイ先の個人住居、同伴ホテル・旅館、カプセルホテル等は除外。

3. 調査実施機関

県、市町村(平成21年末時点の市町村の別による)